

農推第2364号  
平成29年10月17日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

## 病害虫発生・防除情報メールサービス（10月）

大阪府内の10月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。  
長雨などによって病害が発生しやすくなります。栽培管理には十分注意し、必要に応じて防除を行いましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。
- 新たな農薬の評価手法（短期暴露評価）が導入されることに伴い、登録変更（変更申請中のものを含む）によって、使用が制限される農薬がありますので注意してください。

詳しくは、販売店で提供されるチラシ等や下記ホームページを確認してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ 防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◎ 短期暴露評価により変更される農薬の使用方法の周知等について」  
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/H27nd/ARfDtutu/ARfDH27\\_top.html](http://www.jppn.ne.jp/osaka/H27nd/ARfDtutu/ARfDH27_top.html)

## 目次

1	水稻	P. 1
2	果樹(ぶどう、もも、温州みかん、果樹類全般)	P. 2~4
3	野菜(トマト・ミニトマト、きゅうり、あぶらな科野菜)	P. 5~8
4	野菜類・花き類全般	P. 9

## 水稲

今年発生した病害虫を次作に持ち越さないように防除しましょう！

いもち病、もみ枯細菌病、ばか苗病、内えい褐変病、イネシングレセンチュウ



穂いもち

## 防除のポイント

- ◆ 収穫後にできるだけ早く耕うんする。
- ◆ 自家採種する場合は、上記の病害虫が発生した水田のもみは種もみとして使用しない。

## 縞葉枯病・ヒメトビウンカ



縞葉枯病（ひこばえ感染株）

## 特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病である。
- ◆ 発病したひこばえをヒメトビウンカが吸汁して、保毒する。

## 防除のポイント

- ◆ 早めに刈り株をすきこみ、ひこばえを処分する。

## スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



卵塊

## 特徴

- ◆ 食害が激しいのは田植え後約20日間までで、成長して硬くなったイネは食害しない。
- ◆ 年々発生地域が拡大している。

## 防除のポイント

- ◆ ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とすか（卵は水中では生存できない）、踏みつぶす。
- ◆ 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰し、越冬貝を減らす。
- ◆ 田や水路に水があると越冬貝が増えるので、水を溜めないようにする。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

## 果樹

## 10月前半の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			ブドウトラカミキリ		
もも			せん孔細菌病		
	クビアカツヤカミキリ(新規発生)				
温州みかん			貯蔵病害		
			ミカンハダニ ミカンサビダニ		
果樹類全般			果樹カメムシ類		

## ぶどう

## ブドウトラカミキリ



成虫※

## 特徴

- ◆ 幼虫が枝の内部に食い入り、芽や新梢が枯れたり、枝が折れたりする。
- ◆ 成虫発生時期は8月中旬～10月上旬、幼虫が枝内に食い入るのは10月上中旬。

## 防除のポイント

- ◆ 収穫後、**モスピラン顆粒水溶剤**（収穫後秋期）、**スミチオン乳剤**（小粒種:90日前まで、大粒種:30日前まで）などを散布する。

## もも

## せん孔細菌病



発病枝（夏型枝病斑）

## 特徴

- ◆ 秋期に風を伴った降雨が多くなると、越冬する病原細菌が多くなり、次作に影響する。

## 防除のポイント

- ◆ 収穫後、9～10月に**ICボルドー412**等を散布する。
- ◆ 台風・大雨があると落葉痕からの感染が多くなるため、事前の予防散布に努める。
- ◆ 発病枝(夏型枝病斑)を除去し、園外に持ち出して処分する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

## もも

## クビアカツヤカミキリ



## 特徴

- ◆成虫3～4cm。全体は光沢ある黒色で、前胸は明赤色。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。
- ◆成虫は6～8月に出現、幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
- ◆うどん状のフラス(木くず・糞・樹脂の混合物)がある穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどん状よりも細いフラスを出すことがある。

## 防除のポイント

- ◆成虫は見つけ次第、捕殺する。
- ◆うどん状フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**(前日まで)、**ベニカカミキリムシエアゾール**(前日まで)を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆目合4mmのネットを樹に何重にも巻き付け、羽化した成虫を閉じ込める。ネット設置後も見回り捕殺する。樹とネットが密着していると成虫が噛み切り、脱出する恐れがあるので、ある程度余裕を持たせる。

秋期までは幼虫が活動するため、フラスの排出が見られます。  
フラスが見られるこの時期までに、ほ場をよく観察し、被害があるかを確認しましょう。  
詳しくは  
病害虫防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！モモ・ウメなどの樹を食害します！」  
を参照して下さい。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H29nd/H29yosatu.html>



## 温州みかん

## 貯蔵病害



緑かび病

## 特徴

- ◆青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。
- ◆青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

## 防除のポイント

- ◆収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
- ◆貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。
- ◆収穫前に**トップジンM水和剤**(軸腐病、青かび病、緑かび病(いずれも前日まで))や**ペフラン液剤25**(青かび病、緑かび病(いずれも前日まで))等を散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。(http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

## 温州みかん

## ミカンハダニ・ミカンサビダニ



ミカンハダニによる葉の被害※



ミカンサビダニによる果実の被害※

## 特徴

- ◆果実や葉に寄生、吸汁して変色させる。
- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多発する。

## 防除のポイント

- ◆発生を確認した場合は、コロマイト水和剤、ダニエモンフロアブル、スターマイトプラスフロアブル（いずれも7日前まで）等を散布する。
- ◆同一系統薬剤を連用すると抵抗性が発達しやすいのでローテーション散布を行う。

## 果樹類全般

## 果樹カメムシ類



クサギカメムシ

## 特徴

- ◆もも、うめ、かき、ぶどう、みかんなどの果実に傷をつける。

## 防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
  - ◆発生を確認した場合はアディオンの乳剤（かんきつ14日前まで、もも7日前まで、かき7日前まで）スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ前日まで、もも前日まで、かき前日まで）などを散布する。
- 注）作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

## 野菜

## 10月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト (施設栽培)				トマト黄化葉巻病 (TYLCV)・ コナジラミ類		
					すすかび病	
きゅうり (施設抑制栽培)	うどんこ病					
			べと病			
					炭そ病・ 褐斑病 ミナミキイロ アザミウマ	
あぶらな科野菜 (キャベツ、 こまつな、 しろな等)					コナガ	
				ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)		シロイチモジヨトウ
				根こぶ病		

## トマト・ミニトマト(施設栽培)

## トマト黄化葉巻病(TYLCV)・コナジラミ類



TYLCV発症株

## 特徴

- ◆ トマト黄化葉巻病 (TYLCV) は、コナジラミ類により媒介される。

## 防除のポイント

- ◆ 感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆ 感染株からの二次伝染を防ぐため、除去した株はビニル袋等に密閉して完全に枯死させる。
- ◆ ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除去を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合0.4mmのネットを展張する。

## すすかび病



被害葉※

## 特徴

- ◆ 近年増加傾向にある。葉かび病よりかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

## 防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、トリフミン水和剤 (前日まで)、アフエクトフロアブル (前日まで)、ファンベル顆粒水和剤 (トマトのみ、前日まで)などを散布する。

● 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

● 農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## きゅうり(施設抑制栽培)

## うどんこ病



## 特徴

- ◆日照不足、乾燥、過繁茂による風通しの悪さにより発生が助長される。

## 防除のポイント

- ◆QoI剤、SDHI剤は耐性菌が発生しやすいため、同一薬剤の連用は避け、1作1回程度の使用に留める。  
QoI剤の例：アミスター20フロアブル(前日まで)  
ストロビーフロアブル(前日まで)  
フリントフロアブル25(前日まで)  
SDHI剤の例：アフェットフロアブル(前日まで)
- ◆葉裏から発生することもあるので、注意深く観察し、初発の段階で環境改善・防除を行う。
- ◆高温時や浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が生じる恐れがあるため注意する。

## べと病



## 特徴

- ◆多湿下で発生が多い。
- ◆夜温が低下して結露し、発生が増加する。

## 防除のポイント

- ◆ハウス内が多湿になると発生しやすいので、排水、換気に注意する。
- ◆肥切れになると発生しやすいので、追肥をこまめに行う。
- ◆発生が見込まれる時期にジマンダイセン水和剤(前日まで)やランマンフロアブル(前日まで)等を予防的に散布する。
- ◆発生を確認した場合は、プロポーズ顆粒水和剤(前日まで)やベトファイター顆粒水和剤(前日まで)等を散布する。

## 炭そ病・褐斑病



炭そ病



褐斑病

## 特徴

- ◆窒素過多・肥切れは発生を助長する。
- ◆いずれの病原菌も多湿下で、炭そ病は22～24度、褐斑病は25度以上で発生しやすい。

## 防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤(いずれも前日まで)、ベルコート水和剤(前日まで)などを散布する。
- ◆発生を認めたらアミスター20フロアブル(前日まで)、ゲッター水和剤(前日まで)などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

## きゅうり(施設抑制栽培)

## ミナミキイロアザミウマ



成虫※

## 特徴

- ◆高温小雨で増えやすい。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モベントフロアブル（前日まで）、プレオフロアブル（前日まで）、ディアナSC（前日まで）、アフーム乳剤（前日まで）を散布する。

## あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

## コナガ



成虫※



幼虫※

## 特徴

- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

## 防除のポイント

- ◆定植前かん注処理あるいは定植時粒剤施用と、本ぽは異なる系統の薬剤を使用し、同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。

## ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)



幼虫\*

## 防除のポイント

- ◆苗床も含め、発生には充分注意し、初期の防除を徹底する。
- ◆被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。
- ◆セル成型育苗トレイにプレバソンフロアブル5（キャベツ、はくさい）等をかん注するか、プリンス粒剤（キャベツ、ブロッコリー）等を施用する。
- ◆発生初期にディアナSC（キャベツ、はくさい、ブロッコリー等）等を散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)



## シロイチモジヨトウ ※注意報第1号(平成29年9月29日発表)



はぼたんを加害する幼虫(右が頭)

## 特徴

- ◆9月の巡回調査で、キャベツへのシロイチモジヨトウの寄生株率・虫数が平年を大きく上回った。
- ◆本年は、ねぎだけでなく、あぶらな科野菜・はぼたんでの発生が目立っている。

## 防除のポイント

- ◆ほ場をこまめに見回り、卵塊や分散前の幼虫は、見つけしだい捕殺する。
- ◆分散後は若齢幼虫のうちに薬剤で防除する。(老齢幼虫になると薬剤の効果が大幅に落ちる)
- ◆同一薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。

詳しい防除方法などは、病害虫発生予察注意報第1号を参照して下さい。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H29nd/H29yosatu.html>



## 根こぶ病



根こぶ病によるキャベツのしおれ症状と生育不良\*

## 防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆定植時に温度が高いと発生しやすい。早植えを避ける。
- ◆土壌pHが低い(酸性)と発生しやすい。石灰質資材等を施用しpH 6.5~7に調整する。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーでは定植前に、**ネビリュウ**や**オラクル粉剤**を土壌混和する。

## 野菜類・花き類全般

## 10月前半の病害虫発生状況

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類			オオタバコガ		
花き類(露地)					

## オオタバコガ



なすの果実を食害するオオタバコガ幼虫

## 特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

## 防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、捕殺等も含めて早期防除を心がける。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（キャベツ、なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、アニキ乳剤（キャベツ、なす、トマト、ミニトマト、きくなど）などを散布する。